

闘魂

高島高等学校

高島高等学校の部旗には「闘魂」の文字が染め抜かれています。

この「闘」という字は、正確には、扉のある門柱を並べた「門」（モンガマエ）ではなく、武器を持った2人が対峙する姿を表し「たたかう」という意味のある「鬥」（タカガマエ）の文字です。また、「魂」は精神を司るたましいですので「闘魂」は「たたかいぬこうとする精神」という意味となるでしょう。

ところで戦後編集された「広辞苑第6版」等の辞書には出てくるこの「闘魂」という言葉が、戦前編集された「大言海」などには出てきません。一方、昭和28年（1953）に柔道家を描いた「闘魂」という映画が、昭和38年（1963）に「闘魂こめて」という読売巨人軍の応援歌が作られています。また、昭和49年（1974）編纂の「研究社新和英辞典」で【tokon: 闘魂】は【fighting spirit】と出ています。戦後スポーツ振興が進み、【fighting spirit】という英語の導入の時期に「闘魂」という言葉が生まれ、東京オリンピック前後のスポーツ熱の高まる中で広く用いられるようになったのではないかと想像してみるのです。

高島高校剣道部は、故八木謙一範士八段などの旧制今津中学校の大先輩の薫陶を受け、昭和31年あたりから県高体連剣道大会で優勝するなど活躍し、白井督郎先生、仮屋達彦先生、河原恵先生などのご指導の下、近畿大会の常連となり、昭和52年全国総体では男子団体・個人で3位入賞するチームに成長しました。そして、昭和54年、今津で開催された全国総体では男子団体8位、女子団体3位、女子個人磯野選手がベスト8になるなど全国に高島の名が轟きました。現在の部旗は平成5年度、当時剣道部顧問であった河原恵現専門部長が、全国総体成功のために昭和52年高島高校へ単身赴任して献身的に準備や運営に当たられた石田承玉元全国副専門部長に揮毫を依頼されて作られたものです。輝かしい伝統とこの部旗に見守られながら、現在の部員も魂を磨いています。